

友と交わるには心を尽くして仲良くする

友

とも

に交

まじ

わるに

分

ぶん

を

投

とう

じ



※投と同字



※交と同字

尤

肴



※分と同字



互いに切磋琢磨して修行に励むべきである。

切

磨

し

箴

規

す。

せつま

しんき

箴

規

切

※切と同字

磨

侵

支

歌●

慈しみ、恵み、いたみ、哀れみ、
人の道はこの四つの端（はじめ）より

仁

じん
じ

慈

隱

いん
そく

惻

※隱と同字

隱

惻

仁

慈

真

支

造

ぞう

次

じ

にも

離

はな

れず。

弗

弗

離

造

次

支

しばらくの間も忘れてはならない。



※節と同字



塩



せつぎ



れんたい



節度、道義を守り、心正しくしてむさぼらない
という態度は、

しばらくも失ってはならない。

顛

てんはい

沛

にも

虧

か

けざれ。

匪



※顛と同字



先

支

持つて生まれた性が穏やかな人は安らかな心地である、

性

せい

静

しず

かなれば

情

じょう

逸

いつ

し、



庚



しかし心が利欲などの強い刺激に動揺されると、心の靈妙なはたらきをする精神も疲れるものである。

心

こころ

動

うご

かば

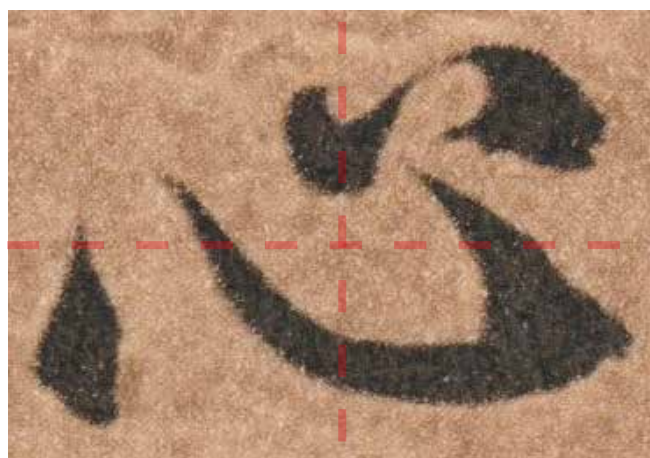
神

かみ

疲

つか

る。



真

侵



支

●



※志と同字

※満と同字

まこと

まも

こころざし
み

ち、

人の道を守り通すと、志はいつも満ち足りる

しかし名利を目を奪われ心を煩わす人は成功しない。

物

もの

を

逐

お

え

意

い

移

うつ

る

